

年 組 名前：

SDGs 給食で学ぶ 月1回ビーガンメニュー

東京都八王子市立浅川小が5月から肉や魚、卵など動物由来の食材を使わない「ビーガン（完全菜食主義者）給食」を月1回提供している。畜産に伴う温室効果ガス排出を削減できる。

菜食は、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の観点からも注目される。一人一人の食生活が環境に与える影響を意識し、多様な価値観を学ぶ狙いもある。

国連食糧農業機関（FAO）報告では、人為的に排出される温室ガスのうち畜産に由来するものは約15%を占める。環境への配慮や動物愛護の観点からビーガンは国内外で増えているという。特別なイベントではなく、普段の給食に完全菜食を採り入れる例は珍しく、清水弘美校長は「公立校では国内初でしょう」と話す。

浅川小ではSDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」を学ぶ一環として、アレルギーや宗教上の禁忌がある児童でも食べられる材料を使った「エブリワン給食」を月1回提供してきた。これに環境の観点を加え、ビーガン給食の実現につながった。

(2021年9月11日付 山梨日日新聞 15面)

問1 東京都八王子市の浅川小が月に1回提供している「ビーガン給食」とは、どんな給食ですか。また、ビーガンとはどういう人のことか、漢字7文字で書いてください。

・ビーガン給食 →

・どういう人 →

問2 ビーガンは国内外で増えていると言われます。その理由は何ですか。

.....

問3 浅川小では、ビーガン給食のほか、アレルギーや宗教上の禁忌(きんき=禁止されているもの)がある児童でも食べられる材料を使った「エブリワン給食」も提供しています。ビーガン給食、エブリワン給食の提供について、あなたはどのように思いますか。

.....